

緊急特集
こうなる 一九九〇年の国際情勢

ソ連・中国は東欧化するか

なか じま みね お
中 嶋 嶺 雄
(東京外国語大学教授)

激動する東欧情勢の陰で進む中ソ接近の意味を解く



社会主義は成熟した国家から崩壊する

一九八九年は、とくに共産圏をめぐる重大な事件が相次ぎ、しかもそれらの事件はいずれも二十一世紀の社会主義の命運を予告するような出来事であったという意味で、まさに現代史の画期であった。

四月中旬から始まった中国の民主化デモは、やがてゴルバチョフ訪中による世紀の中ソ首脳会談の時期をピークに、中国共産党権力を建国四十年にして根本から脅やかす事態にま

訪問が東欧諸国の流動的事態をもたらしたように、いわば共産圏解体への仕掛人となった。それだけに、その当のソ連がはたして東欧のあとを追うのかどうか、そしてやがていつの日にか、もうひとたびの民主化運動によって中国にも東欧と同じような状況が訪れるのかどうか、こうした問題があらためて提起されているといつてよいだろう。

このような社会主義圏の歴史的な激動の過程にあって、私は、昨年九月にはチエコスロバキアと東ドイツを、さらに十一月にはソ連および中国を、それぞれ訪問し、現地の状況をつぶさに体験することができた。

昨年九月の東欧訪問は、ウィーンから陸路プラハに至り、さらに鉄道によって東ベルリンに入り、マルクスやエンゲルスともゆかりのある名門フンボルト大学でのセミナーに出席ののち、「ベルリンの壁」を越えて西ベルリンに出、今度は西側から「ベルリンの壁」を飽かず眺めるといふ日程であったが、その直後に東ドイツのホーネッカー体制が大きく崩れていった。

「ベルリンの壁」のすぐ東側にあるフンボルト大学でのセミナーは、中国の天安門事件に関するものであった。たまたま『中国の悲劇』(講談社)を著わした直後に訪れた私は、ホーネッカー体制下の東ドイツ当局が民主化運動を強硬に弾圧した中国側に強いシンパシーを示していることを知りつつも、あえて中国で敗北した今回の民主化運動の歴史的意義を強調

で発展したが、あの六月四日の天安門広場「血の日曜日」の悲劇は、一九八九年に起った共産圏解体への衝動を、軍の暴力によって死守しようとした社会主義権力の最後のあがきであったとみることもできる。こうした極限的な状況とは対照的に、九月から初冬にかけて東欧情勢は驚くべき急速なテンポで展開し、いわば共産圏が内部から崩壊するという状況がいよいよ現実化してきた。

そうした動きのなかで、ベレストロイカを掲げるソ連の動向が大いに注目されるのだが、ゴルバチョフ書記長自身は、その訪中が中国の民主化デモを拡大し、またその相次ぐ東欧

したのである。その際、東ドイツの中国専門家は、私とほぼ同じ意見を分ち合っているながら、公式のセミナーの場ではホーネッカー指導部と同じ立場で意見を表明せざるを得ない状況にあった。そのとき、東ドイツの学者の一人が私的会話のなかで、「もうしばらく待ってほしい。もうしばらく……」と語っていたことが印象的だった。

その「もうしばらく」が見る間に訪れ、ホーネッカー退陣から新しい東ドイツの誕生、そして「ベルリンの壁」崩壊へと、かくもドラマチックに動こうとは、当の東欧の学者も予想しえなかったことだろう。一九八九年になって、ポーランドに始まりハンガリーに波及した自由化の潮流は、こうした独裁的な社会主義体制を強化してきた東ドイツおよびチエコスロバキアにまで飛び火し、さらにブルガリアにも広まっていた。これらの国のいわばアンシャン・レژیム(旧体制)は、いまや音をなして崩壊したのである。

私はかねがね、社会主義は成熟した国家から次第に崩壊しはじめ、共産主義・社会主義の呪縛から離脱することこそがそれらの諸国での進歩になり、革新になるだろうと強調してきたつもりである。今世紀末から二十一世紀にかけて、時計の針は左から右へと大きく逆回転していくだろうと考えてきただけに、今回の東欧諸国の変動はまさに後戻りのできない歴史的な歩みだといわざるをえない。

この仮説に立つならば、やがてソ連も東欧の後追いをして

いくだろうし、旧体制を固守しようとしている今日の中国や北朝鮮も、いつの日か東欧と同じ道をたどっていくものと考えている。天安門事件という悲劇をもたらした中国の民主化運動には、すでに東欧の改革派と共通する政治意識の高揚がみられただけに、今回は敗北したとはいえ、やがて大きく結実する日が来るのではなからうか。逆説的にみれば、今回の東欧の民主化は、中国の深刻な悲劇を代償として成功したのだともいえない。

東欧と中国に挟まれたゴルバチョフ

今回、私がソ連・中国を訪れたのは、「東アジア比較研究」(文部省科学研究費重点領域研究)に関する学術交流と、ソ連科学アカデミー極東研究所での講演、および天津の南開大学における講演が主たる目的であったが、それと同時に、ソ連ではゴルバチョフ書記長の中国問題でのブレインといわれるチャレンコ極東研究所長らを含む多くの学者と意見を交わすことができた。さらに中国では、北京の中国国際経済諮詢公司などのシンクタンクや上海国際問題研究所での意見交換、とくに上海国際問題研究所では上海出身の江沢民総書記のブレインともいわれる陳啓愚所長らとの懇談などを通じて、さまざまな問題点を確認することができた。しかも今回はみずからの責任で歩く旅行でもあったために、わずか一週

間の滞在ながら、モスクワ、レニングラード、北京、天津、上海の各地の状況を肌で感ずることができた。まず、ソ連の印象からいえば、ベレストロイカはグラスノスチとともに、ソ連社会にきわめて大きなインパクトを与えている。しかしながら、それは社会の伝統的なシステムや、あの硬直したソビエト体制を内側から変換することなく作用する領域、つまりものの考え方や外交政策を著しく柔軟化したけれども、長期にわたるあの社会システムや経済構造はまったく変っていない。のみならず、ソ連における経済改革はほとんど何の成功もみえていないことを随所で感ずることができた。

この点についてはソ連の学者たちも認めており、ゴルバチョフ書記長自身も、ソ連国内ではいま東西ヨーロッパやアメリカでみられる「ゴルビー・ブーム」のような浮わついた人気のなかにある存在では決してない。ソ連の市民は従来にも増して深刻な物不足に直面しており、寒天のなかですます長くなった行列をつくりながらベレストロイカを眺めている。そういう目からみると、ゴルバチョフは決して全能とはいえず、国内には多くの不平や不満が鬱積しているといっている。

その反面、グラスノスチによってさまざまな意見が出はじめているために、ゴルバチョフ体制ないしはソビエト権力に対する批判や抵抗もきわめて多様になってきている。それは

今日、千五百万人もの支持者がいることは、ベレストロイカの陰に隠れて意外に知られていない。つい最近も、イギリスの保守党議員がヨーロッパを席巻しつつある日本製品、アジアン・E.S.の製品の氾濫に苛立ち、これらのグループとの連帯を表明して、反アジア主義を鼓舞している。この場合の反アジアの対象は日本であり、台湾、韓国であるという。このような意見の多様化をみただけでも、ベレストロイカによってその枠組みが緩めば緩むほど、多くの難問が噴出しているというのがソ連の現状だといえよう。

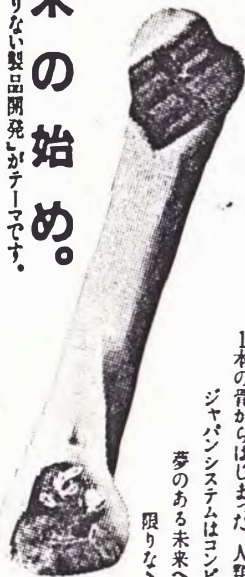
こうしたソ連の変化は、もちろんブレジネフ時代には考えられないことであった。したがって、「ニュース・ウィーク」(一九八九年十二月七日号)が特集しているように、また、わが国の多くのクレムノロジストの見方にも示されているように、ゴルバチョフの政治的な危機を強調する人々も目立っている。ただ、ソ連の多くのリーダーや学者の一致している

バルト三国、アゼルバイジャン、アルメニア、あるいはモルダヴィア、グルジア等々における民族反乱の爆発にみられるだけではなく、言論においても、じつにさまざまな言論がいま出はじめている。たとえば、『モスクワ・ニュース』のような改革派のメディアが大きくソ連の改革の必要性を訴えているかと思えば、ロシア・ナショナリズムに立脚した『ソビエツカヤ・ロシア』のグループは、きわめて民族主義的な考え方を強調したり、あるいは『リテラトゥールナヤ・ロシア』(文学ロシア)のグループは、スターリン式の社会主義方式にノスタルジーを覚えて、保守的な主張を展開するといったありさまである。

また、『パーミヤツチ(記憶)』という新聞がいま注目されている。その教祖的指導者ワシリエフは、並はずれた反ユダヤ主義、反アジア主義で知られ、このグループはナチスまがいのシンボル・マークと制服で統一された集団だが、これに

未来の始め。

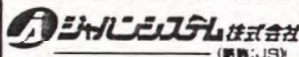
「限りない製品開発」がテーマです。



一本の骨からはじまった、人類の創造の歴史……。
ジャパンシステムはコンピュータ・ソフトの開発で
夢のある未来へ
限りなき創造を続けていきます。

事業内容

1. システム生産
2. ソフトウェアパッケージの生産・販売
3. 人工知能・知識情報処理システムの設計及び生産
4. 通信システム事業



- 本社 / 〒163 東京都新宿区西新宿1-25-1
新宿センタービル31F ☎03(343)1311P0
- サンシャイン事業センター / ☎03(368)1711P0
- 渋谷事業センター / ☎03(760)1311P0
- 営業所 / 札幌・名古屋・大阪・九州
- 事業センター / 仙台・横浜・熊本
- 開発センター / 石神井

そろそろ
夫婦で
遊びたい。

西九州一周 3日・4日
添乗員同行

東京発着	245,000円
名古屋発着	218,000円
大阪発着	206,600円
現地発着	163,800円

※3月、4月、5月、7月22日～8月30日出発
お2人で10,000円追加となります。

■旅行日程(主な見どころ)

2日目:地盤巡り、青の洞門、深耶馬溪、阿蘇
中央温泉(泊)

3日目:木前寺公園、熊本城、長崎オランダ村、
長崎(泊)

4日目:大浦天主堂、グラバー園他長崎市内
吉野ヶ里遺跡

■出発日

2月1.2.8.9.15.16.23.24日
3月2.3.6.9.10.13.16.17.20.23.24.27.28.31日
4月2.4.5.10.12.15.16.19.22.24.26.28.30日
5月2.4.7.10.13.15.17.19.23.25.28.31日

●北海道から沖縄まで、全21コース
います。お申込み・お問い合わせは、お

の近畿日本ツーリストの支店までどうぞ。

近畿日本ツーリスト

〒101東京都千代田区神田松永町1

ところで、ソ連が抱える困難な問題や経済の停滯があるからといって、ゴルバチョフの政治的基盤が不安化することにはつながらないとする認識である。

これだけ多くの問題が噴出してくるのは、まさにペレストロイカがゴルバチョフによって断行されたおかげであり、しかもいまのソ連にはゴルバチョフを超える指導者が存在しない。いかに保守派の存在があるとはいえ、リガチョフのようなスターリン的社会主義者には明日はないと思われるし、またマスコミに人気のあるエリツィンのような急進改革派がソ連の責任あるリーダーの地位に選出される可能性も当面はきわめて小さいといえよう。

ゴルパチョフ書記長自身は、おそらく内心では東欧の行き方を肯定しているものと思われる。だからこそ彼は東欧の流動化を仕掛けたのだろうが、それにしても東ドイツであれだけ急激に「ベルリンの壁」が崩れていこうとは、ゴルパチョフ

目すべきところである。しかしながらソ連自身は、いまだ東欧化することは何としても避けたいという点で、一つのコンセンサスを得ているようだ。ゴルバチョフ自身も、いずれはソ連も東欧のような政治的多元化を余儀なくされるであろうことを認めつつも、いまだ東欧のように急激にソ連が変るとなると、その国家的存立そのものが危うくなることを十分承知している。したがって、ソ連の改革は一種の漸進主義によって一歩一歩やっていかざるをえないし、またそうしたかたちでのソ連の社会システムの変換と改革こそ、今後のソ連の課題であり、これは数年のうちに成就するとは思えない大きな難題だといわなければならない。

今日のソ連経済はきわめて深刻な不振に陥っている。私はこのところ毎年のようにソ連を訪れる機会に恵まれているが、今回は久びきに単独旅行をしたこともあって、この点により鮮明に感じられた。たとえば、自国通貨であるルーブル

フ自身も予想しなかっただろう。他方でまた、訪中の際には中国の学生や市民に民主化の旗手として迎えられながら、中国当局があればほど強硬に民主化運動を弾圧しようとは想像しなかったに違いない。こうして結果的に東欧と中国という二極分解が生ずることとなり、このような東欧と中国の二つの両極端な行き方のなかで、その中間に立っているソ連とその指導者ゴルバチョフは、この点できわめて大きなジレンマに立たされているといわざるを得ない。

ソ連は、巨大な矛盾のなかにある

しかも今日のソ連にとつ、もう一つの深刻な問題は民族問題の処理である。とくにバルト三国、エストニアを中心とする分離独立の傾向に対しては、いまソ連国内にバルト三国のフィンランド化を肯定する意見まで出てきていることは注

がその価値を大きく喪失している。昨年十一月一日からルーブルはハードカレンシーに対して十分の一という急激な下落を平価切り下げを行なった。これは外国人旅行者にはたいへん有利な換金率になるが、逆にソ連の学者や技術者が外国へ出るときには、従来の十倍のルーブルを集めないと外貨を手に入れないという深刻な事態をもたらしめている。外国人とみれば、外貨買い、ドル買いが横行していることはすでに報じられているところだが、たとえばタクシーに乗るにしても、ソ連ではもはや外国人からはルーブルを受け取らない。ルーブルを受け取る時には数倍の値段を吹っかけてくるが、それでもタクシーを拾うこと自体が至難である。

今回の旅行でも、私はそんなときにマールポロが役立つと聞いていたので、たまたまレニングラードのドルショップでマールポロを二箱買っておいた。レニングラードから夜のモスクワ空港に着いて、タクシーでホテルに向おうとしたが、

北へ南へいい旅

ワシントンホテル

時間にとり、ワシントンホテルの旅。

フットワーク軽快な旅

都心のホテルで大きな時間が広がる充実の旅。
ワシントンホテルは、交通に便利な都心で
フットワークの良い旅をお約束いたします。
季節料理、中華料理、ステーキなど味でもてなしする
直営飲食店も豊富。味なホテルでいい時間をどうぞ。



厚さ1mmの鋼板の貯金箱

全国のワシントンホテルでご利用いただける
ワシントンカード

※ポイント・お食事ご利用ごとに点数が加算されます。
(毎週100円で1点、お食事200円で1点)
※例えば、毎週5,000円で50点、お食事5,000円
で25点。※1,000点に達すると、その場で現金1万円
をお金に換え、※1枚のカードでご本人以外の方
でもご利用いただけます。※お申込み・お問合わせは
必ずお電話にて。どうぞ。

直営飲食店が1日夜までおもてなし。

WASHINGTON HOTELS

札幌第1	新増本館	鳥取
札幌第2	新増新館	松工
八戸	長野	高松
秋田	富山	松山
北上	高岡	高知
仙台第1	金沢	徳島
仙台第2	静岡北	小倉
山形	名古屋第1	長崎
鶴岡	名古屋第2	大分
福島	名古屋金	宮崎
那須	岐阜第2	鹿児島
会津若松	新大塚	沖縄
新潟	神戸	佐渡リゾート
宇都宮	姫路	●韓国
千原	岡山	南ソウル
秋喜坂	福山	満洲

90年OPEN予定
五條・豊田・池田・河内・高槻

●ご予約は

●田舎の文化

好評発売中!!

ハイテクブックシリーズ①

CDのすべて



デジタルの基礎からコンパクトディスクの原理・応用まで

CDのすべて

第1章 デジタル技術の発達 第2章 デジタルC 第3章 組み合せ論理と順序論理 第4章 2進数と16進数 第5章 ハイファイを求めて 第6章 PCMの原理 第7章 A/D・D/A変換器 第8章

章変調と復調 第9章 誤り訂正符号 第10章 CDの記録系 第11章 CDの光学系 第12章 CDの再生系 第13章 オーバーサンプリング 第14章 CD-ROM 第15章 ナビゲーションシステム 第16章 光磁気記録
原田益水 著
A5判/1,900円(税込)

電波新聞社

東京都品川区東五反田1-11-15
電話 03-445-6111

これがまたたいへん困難をきわめた。しかし私は現実には二箱のマールポロのおかげで、ルーブルを使わずにホテルまでタクシーに乗ることができたのである。事実、多くの日本人特派員諸氏は常にワンカートのマールポロを用意している。それで、私がたつた二箱のマールポロで市内までタクシーに乗れたことを逆に驚かれたほどである。アメリカ・ブランドのたばこがルーブルに代って通貨の役割を果たすなどというのは容易に信じられないだろうが、実際にマールポロがルーブルに代って通貨となりつつある。貨幣はこうして発生するのかと納得できたほどに、原始共産制の社会を今日のソ連に見出した感があった。一事が万事この調子で、そうした今日のソ連社会の社会的・経済的内実が、マルタ会議で颯爽と冷戦の終結を宣言したゴルバチョフ書記長の輝けるイメージとはいかに大きな断絶があることか。これが今日のソ連社会の現実の一断面である。

象であった。

江沢民は近い将来に訪ソする?

そのソ連が、東欧情勢もさることながら、当面の中国をどうみるかも、私にとっては大きな問題であった。今回、私が講演を行なったソ連科学アカデミー極東研究所は、チャレンコ所長のもとに中ソ関係を中心に研究活動を展開している研究所だが、従来はゴルバチョフ側近のナンバー・ワン、ナンバー・ツーといわれるヤコブレフ政治局員や、ブリマコフ・ソ連最高会議連邦会議議長といったブレインを次々に生んだ世界経済国際関係研究所(IEMO)のほうが脚光を浴びていただけに、いわばライバルの関係にあった研究所である。ところが、昨年五月の歴史的な中ソ間の和解以来、ソ連科学アカデミー極東研究所も注目を集めるようになってき

当面、ソ連は何としても経済を活性化させなければならぬ、そのためには既存の社会システムをいかにつくり変えていくかという大きな課題に立ち向わなければならない。それが達成されない限りペレストロイカの成功はありえないであろう。しかしソ連は、すでに指摘したように、東欧のような急激な変化を望んでいない。そもそもペレストロイカはソ連社会を根本的に変えるべきものであるにもかかわらず、ソ連の社会は一向に変わっていないという現実が歴然としてある。今回のマルタ会議でも冷戦の終焉が確認されたにもかかわらず、ワルシャワ条約機構とNATOというヤルタ体制の根本的な解消までには踏み切れず、さらに東西ドイツの統一という重大問題が表面化することをできるだけ避けたいとする合意をアメリカとのあいだにもったことも、結局はソ連の当面のジレンマの反映ではないかと思われる。ソ連の現状は、まさに巨大な矛盾のなかにあるというのが私の率直な印

た。チャレンコ所長はゴルバチョフ訪中に付き添って北京に行き、中ソ首脳会談の背景を内外記者団に説明したことからも明らかのように、ゴルバチョフ書記長の中国問題のブレインだといってもよい存在である。

この研究所の一日は、中国内政に関する私の分析と中ソ関係に関する議論のやりとりで終始したが、そこで感じたことは、一口でいうと、ソ連は一方で東欧情勢を半ば容認しつつも、自らの急激な変化を避けたいがゆえに、今日、共産圏の解体が進むなかで断固として従来のイデオロギーと社会主義システムを死守しようとしている中国に対して、一種の安堵感をもっており、その限りで中国にかなりの期待を抱いていることである。東欧があれだけ急激に崩れていっているだけに、いま中国までが大きく変動するようなことがあつては、ソ連にとつてもたいへんなことであり、自らの足許も崩れかねないという不安がある。その意味で鄧小平・江沢民体

好評発売中!!

ハイテクブックシリーズ②

エキスパートシステム入門



システムエンジニアのための

エキスパートシステム入門

内容 1 エキスパートシステムの概要 2 エキスパートシステムのテクノロジ 3 ハードウェア 4 構築ツール 5

エキスパートシステムの構築手順 6 技術系エキスパートシステム 7 ビジネス系エキスパートシステム
(付録が国におけるエキスパートシステムの代表的適用例)
近畿情報処理技術士会編
A5判/1,900円(税込)

電波新聞社

東京都品川区東五反田1-11-15
電話 03-445-6111

ThreeBond

先進のテクノロジーで ケミカルコミュニケーションを 推進するスリーボンド

〈製造品目〉

シール剤・接着剤・ロック剤・
潤滑剤・防錆剤・洗浄剤・保
護剤・離型剤・成型加工品・
自動化省力機器（ほか）

技術と実情で世界をむすぶ

株式会社スリーボンド

本社・〒193東京都八王子市猿井町1456
電話(0426)61-1333(代表)

制下の中国の保守派の強硬姿勢は、ソ連自身の安全保障のためにも必要である。そうしたソ連の立場が歴然としていた。

この事実、東欧情勢の陰に隠れて一般には注目されていないが、一方で中ソ関係が急ピッチで改善されていることにつながっている。しかも驚くべきことに、ソ連の指導者は、この二月ないしは三月にも江沢民総書記がソ連を訪問するであろうという期待をもっている。後に述べるように、私の分析によれば、今日の江沢民にはとてもソ連を訪れるだけの政治的余裕はないと思われるのだが、ソ連の極東研究所の所長、副所長ら——その一人はソ中友好協会の副主席でもある——は、その点で私と見解を異にし、彼らは江沢民のごく近い将来の訪ソがありうると強く主張していた。私は北京に行ってから日本大使館の政務担当者にその可能性を問うたところ、彼自身もそれはありえないだろうと驚いていたが、ソ連の側からすれば、社会主義圏がかくも急速に動いているだけ

に、このあたりで中国の指導者がソ連を訪れて、東欧とは違った方向を一方で打ち固めたいのだとも考えられよう。

中ソ関係は、昨年五月の中ソ首脳会談の成功にもかかわらず、中国の民主化運動の高揚、そして天安門事件へと事態が動いたために、まだ具体的に詰めが終っていない懸案事項がある。たとえば、中ソ国境確定の問題もその一つだが、ソ連の指導者によると、これについては事務レベルでの決着がほぼついていて、交渉が間もなく妥結するのではないがとのことであった。この国境問題が確定した際には、いま無条約状態にある中ソ間に新しい条約を締結することが大きな外交日程として登場してくるものと思われる。また、これも一九五〇年代初頭の中ソ友好時代からの懸案であったのだが、新疆ウイグル自治区のウルムチからカザフ共和国の首都アルマタに抜けるモスクワ—北京間最短距離の中ソ鉄道の建設が、一九九二年までに完成する予定で、いま急ピッチで進捗しつ

つある。この点でも、中ソ間の相互依存関係は一方でさらに強化されるのではないかと思われる。中国東北地区や新疆ウイグル自治区などにおいては、ソ連との人的交流や国境貿易の拡大、さらには中国からの労働力の輸出なども進んでいくだろう。こうした状況のもとで、近い将来、江沢民総書記あるいはそれに代る李鵬首相の訪ソが行われた場合には、中ソ関係はさらに大きなステップを刻むことになるのではない

か。

中国自身としては、東欧諸国の変化や米ソ関係の進展を垣間見ながら、当面は中ソ関係や北朝鮮との関係を強化し、さらに対モンゴル、対ベトナムとの関係を改善することによって、東欧の共産圏解体への動きを目撃しながら、アジア社会主義圏を必死に固めようとしている。天安門事件以来、西側諸国との関係がかなり厳しくなっているだけに、こうした衝動が中国側に起りつつあるといわざるをえない。

一方、西側諸国との関係はどうかといえば、北京のアメリカ大使館には依然として中国の反体制物理学者「中国のサハロフ」といわれる方励之夫妻が保護されており、アメリカ大使館の前にはナンバープレートをはずした三台の車が常時停車して、方励之夫妻の動静を見張っていた。これはアメリカにとっては決して愉快なことではなからう。この問題は基本的人権、民主主義の根幹にかかわる問題であるだけに、アメリカとしても譲歩できないとするならば、当面、米中関係は基本的に冷却した状態が続かざるをえない。

しかし、アメリカ側も方励之の問題や中国の対中東武器輸出などへの懸念といった「弱点」を抱えており、ブッシュ政権としては、何らかのステップを刻む必要があるわけで、去る十二月上旬のスコウクロフト米大統領補佐官の訪中は、そのような動きの一齣であったと考えられる。

こうしたなかで中国は東欧の行き方を強く批判し、ソ連の



ニューロマンチックスイーツ

グルメのための
新デザイナーケーキ

「伯爵夫人の招待状」

18世紀の美食文化を今に甦らせたパーティサイズのデザイナーケーキです。
素敵なパーティやおもてなしに最適です。



パレリア
ナカサキ

本店・京都河原町四条
☎(075)221-6661~2

●ミックスフルーツ、チョコレート、アーモンド、フディング、グレープフルーツの4種類・4個入り¥2,000(税別ほか各種)



建設は社会の礎。

トンネル、ダム、橋、病院、学校、オフィスビル……建設は社会の礎。熊谷組は建設を通して社会の発展に貢献します。



熊谷組

東京都新宿区津久戸町2-1

東欧化を執拗に牽制しつつ中ソ関係を強化しようとしている。これはまた東欧化回避のために中国との関係を強化しようとするソ連内部にある潮流と合致している。こうした最近の中ソ関係を象徴するかの様に、深夜、雪のなかのモスクワから北京へ飛んだアエロフロートの機内は、中国を訪問するソ連人で満席の状態であった。そのほとんどが技術者あるいは科学者で、彼らはこれから北京を訪れることにはしゃいでいたが、そこにはあたかも一九五〇年代の中ソ友好時代を思わせるかのような雰囲気漂っており、多くの技術者や科学者が中国の経済建設に協力しようとしている構図を垣間見たのである。

いずれにせよ、天安門事件を経た中国が、いま必死になつて社会主義の崩壊を食い止めようとしているその姿にわれわれは着目せざるをえない。さらに東欧情勢の急旋回が中ソ関係にどのようなインパクトを与えるか、という点も視野に入

事件の凄まじい状況を彷彿とさせるものがあつた。

また、中国の一つのシンボルでもある天安門広場に面した革命博物館と歴史博物館は依然として閉館中で、そこは人民武装警察部隊の宿舎となっており、物々しい雰囲気を感じさせる。そして、民主化運動に加担した人々を徹底的に摘発する恐怖政治がいまもって断行されており、にもかかわらず、一方では五月中旬の戒厳令施行前後の一種の二重政権状況、内戦に近い状況のなかで、民主化運動の側に流れていった武器や弾薬が依然として回収されていないという深刻な現実がある。また天安門事件の後遺症はきわめて深刻であり、落胆、失望した人びとによるテロ活動、あるいはハイジャック事件などがいつ起るかかわらないといった状況ではなからうか。今日でもなお戒厳令が解除されない理由もじつはこれらのところにあるといえよう。そうした雰囲気は少なくとも北京では実感することができた。

れながら、日中関係を冷静に打開していく必要があるかと思う。

“ラスト・エンペラー” 鄧小平

私にとって、今回の訪中は天安門事件以後初めてであり、約一年ぶりのことであつた。

まず北京の印象からいえば、天安門広場には依然として緊張が残っており、至るところに人民武装警察部隊が腰のピストルも仰々しく警備している。しかも彼らは隊列を組み、あちこちで軍事教練よろしくデモンストレーションをやっている。長安街の天安門に面する一帯は一般人の立ち入りが禁止されており、広場には行楽客もほとんどいない。広場の中心にある人民英雄記念碑には、天安門事件のときの弾痕やキャタビラーで抉られた石の階段が無惨な姿を残している。あの

私が講演のために訪れた天津の南開大学のキャンパスでも、ある種の緊張を感じた。北京大学は新生がキャンパスにおらず、石家荘で人民解放軍による軍事訓練を受けている。加えて、いまだこの大学でも、週三日、マルクス・レーニン主義とブルジョア自由化反対の学習が強要されているが、多くの学生たちはまったくシラケた状況で、いわば沈黙の抵抗を続けている。民主化運動に積極的に関与した学生たちは次々退学を余儀なくされ、そのことによって清華大学その他の大学で大量の自殺者が出たということも私は直接耳にした。

しかも、天安門事件という悲劇的な代償を払ったにもかかわらず、江沢民体制は依然として政治的に不安定である。六人から成る党中央政治局常務委員会のメンバーは、いずれも保守派であり原則派であり、強硬派であつて、一致団結しているようにみえるが、じつはそうではない。すなわち天安門

“NAGOYA”へ

世界が動き始めた。



ホテル ナゴヤ キャッスル

名古屋城西堀端

☎(052)521-2121

東京営業所/☎(03)593-0391

大阪営業所/☎(06)445-8800

好評発売中

全文・全句を網羅した
ビデオ紀行の決定版！

受賞

ビデオ紀行

ビデオ紀行

三百年の時を超えて今、映像の中で舊郷が歩く。説く。

おのほろ道

●本文・発音・字幕付 ●豪華布張りハードケース入り
●カラー・モノ・音声 ●上下2本組(全百六十八分)



95Y-1-2 ¥19,570(税込価格)

●お問い合わせは... TEL.06(271)1361

TEICHIKU VIDEO

事件に手を汚した李鵬、姚依林、喬石らの指導者たちは、超紫陽を断罪することにおいても、徹底的な経済の締めつけをやることにおいても、またブルジョア自由化を断固として排斥することにかけても、きわめて強硬な姿勢をとっている。ところが、天安門事件のあとに政治局のトップに座ることになった江沢民総書記や李瑞環前天津市長、そして政治局員としてあまり目立たない存在であった宋平などの党官僚グループは、この点でややソフトであり、両者のあいだには早くも亀裂が生じている。

昨年十一月初旬に党中央軍事委員会主席を辞任した鄧小平は、天安門事件で大きな借りをつかった楊尚昆らの軍指導者に権力を奪われないためにも、江沢民をはじめとする党官僚グループをバックアップしようとしているかにみえる。鄧小平は引退したにもかかわらず、依然として超法規的に君臨している。引退してすべての肩書がなくなったがゆえに、彼の

権力操作能力はさらに大きくなったとみななければならない。鄧小平の党中央軍事委員会主席辞任による引退は、彼が健在のうちに次の後継体制を確立しようというものであったと、中国の当局者は私に説明していた。しかしながら、昨年五月十六日、ゴルバチョフ書記長との会談で趙紫陽が暴露した中国共産党十三期一中全会でのあの秘密決議、すなわち「中国におけるすべての重要事項の決定は鄧小平同志に委ねられている」とする決議の廃棄が明らかにされない限り、依然として鄧小平は黒幕として存在しつづけるであろう。この点でも鄧小平は、共産中国のラスト・エンペラーたらしめるをえないのである。

こうした中国の政治状況のなかで、党総書記および党中央軍事委員会主席という権力を手にした江沢民は、その実力にふさわしくない椅子の高さ、その地位の重さそのものに脅えているというのが実態である。確実な情報によれば、江沢民

はごく内輪の近親者に対して、自分の政治的将来の不安を率直に語っているといわれる。

このような中国は当面、経済の過熱とインフレ防止のための引き締め政策を断行せざるを得ない。またそのことは国家の財政事情をますます困難なものにし、同時に四百数十億ドルにのぼると推定される累積債務の返済という問題がいよいよ深刻になってくる。四十億ドルにものぼると推定される観光収入が激減したことだけでも、中国経済にとっては大きな痛手だといわざるをえない。

中華人民共和国が解体する局面

この経済的困難を中国はどのようにして克服することができえるのか。その成否いかんによっては、近い将来、再び大きな動乱が起きかねないというのが、いまの中国の実態ではな

かるうか。

ましてや実際上の最高権力者である鄧小平はいかんせん高齢であり、陳雲、彭真、李先念といった影響力のある長老もすでに「オールド・レッド・アーミー」といわれるような高齢者の集団になってしまっている。間もなくこの頑固な革命第一世代が消えていったとき、はたして今日のような強権体制を維持できるのかどうか。東欧からソ連に至る社会主義世界の大きな変動は、中国にもさまざまな影響を及ぼすだろうし、さらにはもう一つの圧力として、台湾、香港、韓国などアジアNIEsの活力ある経済が、中国を沿岸地方から洗い流している。たとえば、上海の最近の社会状況は、中国当局のブルジョア自由化反対という主張にもかかわらず、ますます香港に似てきている。それだけに上海は北京とは違って経済が活況を呈しているかに感じられるが、社会の実態は、ますます中国型社会主義とは遠い方向へ動いているとい

タリフ

ニュースがリアルで美しい。



連日カラー紙面

タリフ



二十一世紀の京都創りの拠点

千年の都・京都から世界へ
政治・経済・文化の国際交流の輪を広げていきます。



KYOTO INTERNATIONAL CONFERENCE HALL
国立京都国際会館
〒606 京都市左京区宝ヶ池
TEL. (075) 791-3111
FAX. (075) 711-1100

えるのではないだろうか。

こうした二つの水平的な圧力に対して、いまの江沢民体制がはたしてどこまで耐えうるのか。当面は、天安門事件からの教訓を得て、共産党権力のなし崩し的な合法化と法治主義化を行うことによって民主化運動の再発を回避しようと努力するだろう。しかしながら、中国の経済的・社会的困難は継続しており、ましてやあの地縁・血縁のネットワークが張りめぐらされている中国社会のなかで、天安門の血の犠牲を強いた共産党権力に対する批判や反発や怨恨の念はきわめて根深いものがあるだけに、もし何らかの変化が起ったときには、中国が再び大きな変動過程に入ることも当然予想しておかなければならない。そのときには、共産党独裁体制の崩壊のみならず、中華人民共和国の解体ともいえるような新局面が出てくる可能性さえあるのではないか。

一方、中国は広大な農村部分を有しており、依然として変

そのような中国に対して、わが国は依然として長期的に展望することなく、なし崩し的に経済関係の回復を図ろうとしているようにみえる。やはり日中関係は、これ以上、中国当局者の意のままに動くと、かえって多くの中国の民衆の対日批判を招くことにもなり、あるいはこれ以上、中国に経済的テコ入れをすることは、中国をしてますます自力による経済能力の回復を遅らせることになる。この点を十分に考えておかなければいけない。日本がもしこのまま中国の現代化にコミットしていくとするならば、巨大な中国はいくら資金を投入しても支えきれない規模であるだけに、かつて経済の繁栄を誇ったアメリカがラテン・アメリカにのめり込んで債権国から債務国へと一挙に転落していったと同じように、わが国の経済が中国に吸い取られてしまう可能性も一面ではないとはいえない。

いずれにせよ、一九八九年の大きな変化は共産主義、社会

らない中国がそこにあるではないかという見方もある。私自身も従来そうした見方を肯定してきた者の一人であるが、中国農村もこのところかなり大きく変わりつつあり、情報化の波は農村部にも及びつつある。また同時に中国の農民は伝統的に意外に醒めていて、今日の共産党権力に心から満足しているわけではない。こうしたなかで、最近の東欧で起っている歴史的变化、あるいはソ連における漸進的な変化は、もはや後戻りできないものであるだけに、その影響が意外に早く中国全体を捉える可能性があることも考慮しておかなければならないだろう。現に民主化運動に立ち上がった中国の学生や知識人たちの意識は、ポーランドの「連帯」や、ハンガリーの新しい共産党指導者とかかなり類似したものがあつた。当面、中国当局は中国の東欧化を必死に阻止しようとするだろうが、はたしてそれに耐えられるかどうか。私自身は、それは時間の問題になりつつあるように思えてならない。

主義が歴史的に終焉を迎えつつあるということであり、したがって、それが今後どういうかたちで着地してゆくのかという地点にまで視野に入れた政策が必要になってくるだろう。共産圏が解体していくことに快哉を叫んでいるだけではすまされない、さまざまな問題が起つてこよう。多大のコストをかけても、また血の犠牲を払つてもうまいかない社会主義経済を全体的にどこまで支援し、どこまで面倒をみていくかということも、じつは西側諸国にとつて、とくに日本にとつてはたいへんな課題であるということ強く認識しておくべきだ。米ソ関係が改善されたとはいっても、そのことによつてアメリカ経済が回復するという保証はまったくない。それだけに、今後も日本経済の活力ゆえに、さまざまな要求が突きつけられてくることも覚悟しておかなければならない。東欧から始まった大きなうねりは、わが国の将来にとつても、まさに歴史の教訓とならなければならないだろう。

透明商品。



空気も熱も、私たちの目には見えません。しかし、どちらも私たちが生きてゆく基本となるものです。高砂熱学は、この目に見えない空気を、「空調」という商品にかえてお届けしています。あらゆる暮らしの場面で、最適な「空調」をお届けするために、高砂熱学は見えない空気を見つけています。

高砂熱学工業

〒101 東京都千代田区神田駿河台4-2-8